

来月15、16日「きこない咸臨丸まつり」

新幹線車両の山車登場

【木古内】木古内沖で沈んだ幕末の軍艦咸臨丸をテーマに8月15、16日に町内で開かれる「きこない咸臨丸まつり」(実行委主催)のパレードに、北海道新幹線H5系車両の山車が登場する。新幹線が町観光名所の薬師山から飛び出す形のデザインで、色とりどりの造花で彩る。町民有志らが製作する。
(菊池圭祐)



大勢の町民でにぎわった昨年8月の咸臨丸まつりのパレード

町民有志ら製作

薬師山から飛び出すデザイン

来年3月の開業を見据え、北海道新幹線木古内駅開業記念事業実行委が企画した。新幹線山車は幅約2.5m、長さ約10m、高さ約2.5mの大きさで、既存の山車を改修して新幹線車両の先頭部分や薬師山をかたどる。木古内建築協会が木で骨格を作り、町民有志が発泡断熱材を貼り付けて外形を整え、造花を張り付けて彩色する。製作費は100万円。

同まつりは木古内の夏祭り、町内亀川のサラキ岬沖で沈んだ咸臨丸などの山車が市街地をパレードする。今年のパレードには計7基の山車が出場予定で、新幹線山車が目玉になりそうだ。

木古内商工会や町観光協会、町などでつくるまつり実行委の会合が6月26日に開かれ、7月中旬から本格化する山車の製作日程などを確認した。同協会の佐藤裕史会長は「新幹線開業の

町民の意識を高められるよう、まつりの準備を進めた」と意気込む。

今年のパレードは8月15日の夕方、町内本町のみそぎ公園を発する予定。

北海道新聞(2015.7.4)

